

第 8 章 河道特性

8-1 河道特性

菊川は、静岡県中西部の太平洋側に位置し、その源を掛川市粟ヶ岳(標高 532m)に発し、東の牧ノ原台地、西の小笠山丘陵に挟まれた低平地を蛇行しながら南に流下し、下小笠川や牛瀬川等多くの支川を合わせ、遠州灘に注ぐ幹川流路延長 28 km、流域面積 158 km²の一級河川である。

菊川の河道は、丘陵地を流下する上流部、低平地区間で菊川市の市街地や田園地帯を流下する中流部、感潮区間である下流部及び静穏水域や干潟がある河口部からなっている。

(1) 上流部（源流～JR 東海道本線菊川橋）

菊川水源の粟ヶ岳（標高 532m）からの上流部は、それほど急峻な山地はなく、丘陵山地から低平地へ移行する間を流下する区間である。河床勾配は 1/40～1/310 程度で川幅は 10～60m で高水敷はない。植生は、ツルヨシやカワヂシャ等の湿性な草地が見られる。

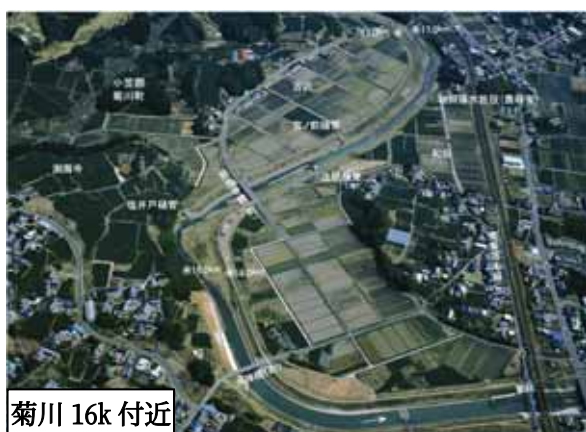


図-8.1 上流部の状況

(2) 中流部（JR 東海道本線菊川橋～県道花面橋）

低平地に出たからの中流部は、昭和 30 年頃までは蛇行しながら流下していたが河川改修（捷水路工事）により、多くの床止め工が設置されている。河床勾配は 1/230～1/900 程度で、川幅は 60～130m である。中流部から下流部にかけての河川敷は茶園の敷草の採草地となっている。植生は、ツルヨシやミゾコウジュ、カワヂシャ等の湿性な草地が見られる。



図-8.2 中流部の状況

(3) 下流部・河口部（県道花面橋～河口）

低平地の主に感潮域を流下する下流部・河口部は河床 1/1700～1/4000 程度と緩くなり、静穏水域が広がる。川幅は 100～240m となる。一部、高水敷に公園として整備された箇所がある。河口部には河口砂州と小規模な干潟、ヨシ原が広がっている。



図-8.3 下流部・河口部の状況

8-2 河床の経年変化

菊川における昭和 47 年以降の基準地点（国安付近）、主要地点（加茂付近）の横断面図及び平均河床高縦断面図から、河床の経年変化傾向を見ると近年約 30 年間に於いて顕著な河床低下や堆積などはない。

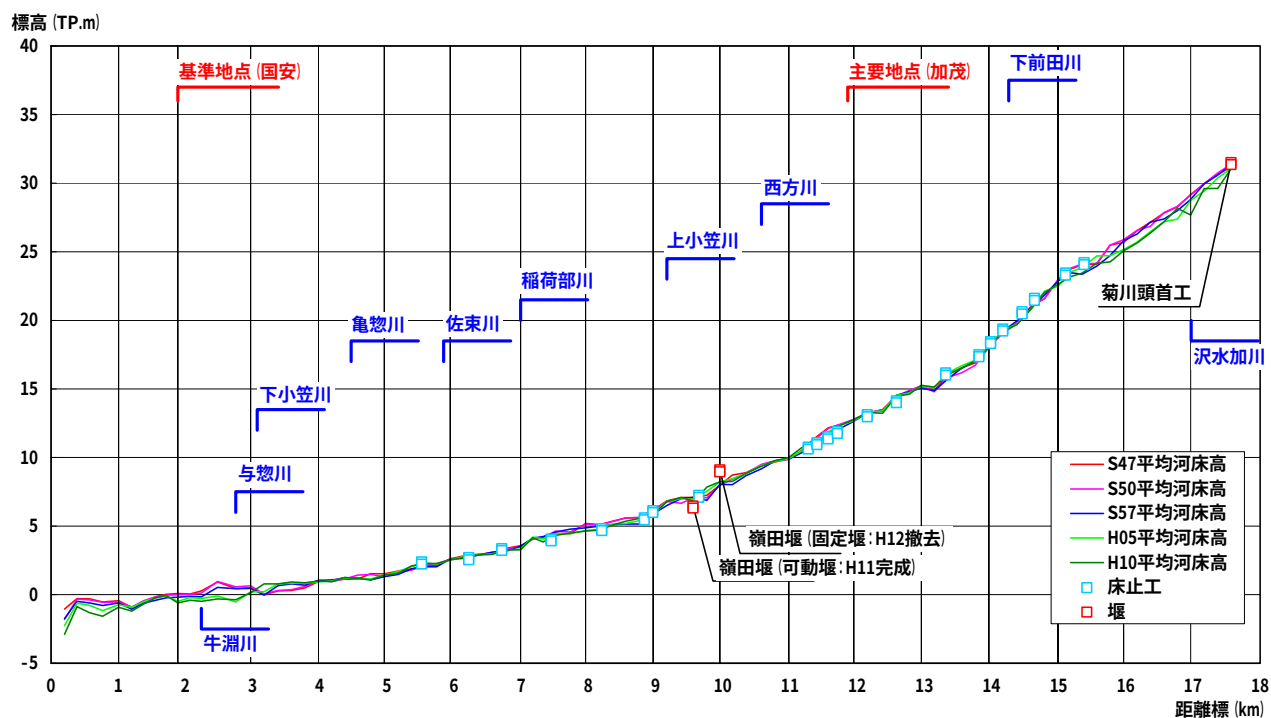
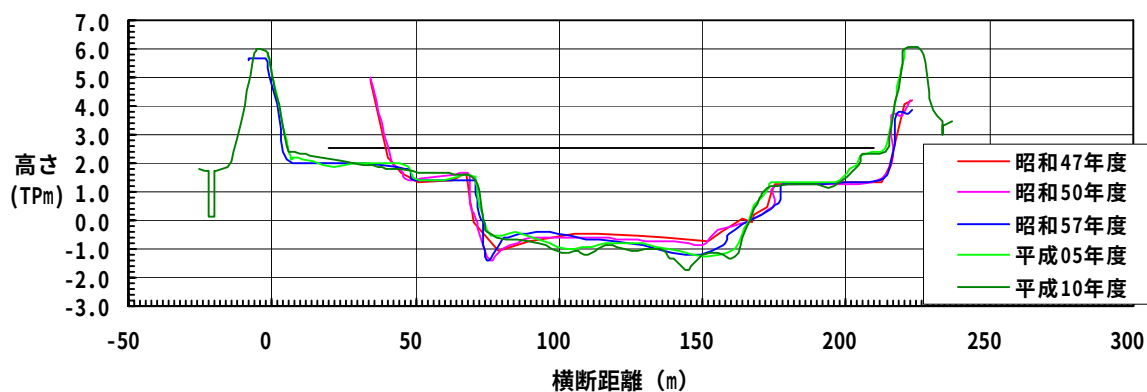
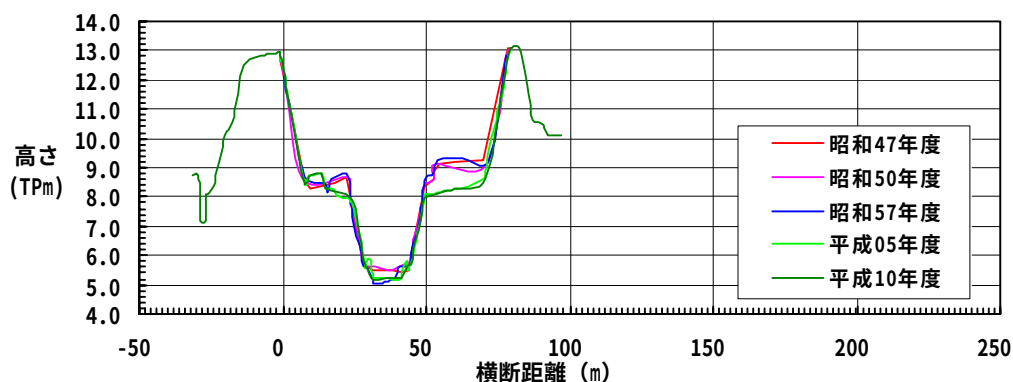


図-8.4 平均河床高縦断面図の経年変化



下流部 (1.0k) の横断面図



中流部 (9.0k) の横断面図

図-8.5 横断形状の経年変化